



愛知工業大学 愛知工業大学情報電子専門学校 愛知工業大学名電高校 愛知工業大学附属中学校

目次

理事長挨拶要旨	2
卓球合宿寮完成	3
新研究施設開設	4
深まる社会連携	5
プロ野球入団	6
国際大会へ出場	7
愛名会だより	8

発行所 名古屋電気学園 千470-0392 豊田市八草町八千草1247 Tel.(0565)48-8177

学園創立百周年を記念し記念館建設へ 後藤淳理事長、仕事始め式で明らかに

後藤淳理事長は一月六日、七日、愛知工業大学八草キャンパス内などで行われた名古屋電気学園、愛工大名電高校・愛工大附属中学校各仕事始め式の挨拶の中で、来年に迫った学園創立百周年の記念事業に触れ、愛工大名電高、愛工大附属中のある若水キャンパス（名古屋千種区若水）内に記念館を建設する計画を明らかにしました。計画では来年秋の創立記念日までに関設を目指します。

学園の仕事始め式は一月七日、八草キャンパスの第



仕事始め式で学園、愛工大、愛工大情報電子専門学校の教職員を前に挨拶する後藤淳理事長

二本部棟五階会議室で行われ、後藤淳理事長、後藤泰之学長が挨拶。理事長は平成二十四年秋に創立百周年を迎える学園が電気を中心に技術者養成に一貫して取り組んできた歴史の重みと社会的役割を力説。そのうえで、高校、中学の新校舎建設等という整備を終えた若水キャンパスの残る敷地内に百周年を記念した記念館を建設することを明らかにし、教職員に協力を呼びかけました。

また、学長はここ数年間の学部、学科再編から入試改革、さらに自由ヶ丘キャンパスや新「1号館」開設の成果等による前期日程入試の志願者増加を取り上げ、「見せかけでない、真の元気を持った大学として様々な課題に取り組みたい。式には、学園、大学の教職員のほか今年から愛工大情報電子専門学校の教職員も出席、理事長、学長の話に聞き入っていました。また、愛工大名電高、愛工大附属中の合同仕事始め式は一月六日、愛工大名電高南校舎地下一階大講義室で、後藤淳理事長が出席して行われました。理事長は



挨拶の中で、記念館について「創立百周年記念の来年秋までに間に合わせたい」と話しました。

そのほか、日本が最近、日本人としての意気込みや世界へ向けての発信力もなく元気がないことを挙げ、教員に対し「社会のために働く、元気の出る子どもを教育してほしい」と訴えました。写真⑥。

学園は、記念館建設を含む創立百周年各記念事業の費用の一部を募金で賄うこととし、平成二十五年八月末までの期間、募金活動を行います。

学園創立98周年記念式典、平成22年度物故者法要挙行

（理事長、学長の年頭挨拶の要旨は、二ページに掲載しています）
学園は十一月九日、名古屋千種区の愛工大名電高で「学園創立98周年記念式典」を行い、



表彰を記念して後藤淳理事長（前列右から7人目）を囲み、記念写真に収まる永年勤続者（赤リボン）

永年勤続者を表彰。引き続き、「平成22年度物故者法要」を高校近くの覚王山日泰寺で厳かに営みました。式典は齋徳館で、後藤淳理事長、後藤泰之愛工大学長ら学園役員、各設置校の教職員が出席して行われました。理事長が永年勤続者合わせて二十三人一人ひとりに賞状と記念品を贈り、受賞者を代表して吉賀憲夫大学基礎教育センター教授が謝辞を述べました。物故者法要は覚王山日泰寺本堂で理事長、学長、学園役員、各設置校教職員、学生・生徒、遺族らが出席して営まれました。

理事長、学長の平成23年年頭挨拶要旨



後藤淳理事長

明けまして、おめでとうございます。今年も穏やかなお正月を迎え、内外ともに問題の多かった昨年と違って、この穏やかなお天気の様に一年のスタートを切れればと思います。昨年は（名古屋市

千種区）自由ヶ丘に新キャンパス、八草キャンパスには新しい1号館の建設など、大学の様々な整備を進めてきました。一昨年、大学が開学五十周年を迎えましたが、学園は大正元年、一九一二年に名古屋電気学講習所として創立、同秋に名古屋電気学校に改称され、来年、創立百周年を迎えます。学園挙げて百周年記念事業に向けて取り組みを始めるところで、愛工大名電高

校、愛工大附属中学校の整備を終えた若水キャンパスの残る敷地内に「百周年記念館（仮称）」を建設、来年に完成させる予定で、計画を進めています。百年は、長い歴史であり、そして平成と、電気を中心の初級技術者養成に一貫して努めてきました。戦後の学制改革で、短大から大学へと進み、大学の五十年も学園百年の中のページを刻

秋まで百年をきれいに飾りたいと思っております。（皆さんの協力を）よろしくお願ひします。教職員の皆さんは、平成二十二年度の締めくくりに三学期目に入り、さらに新しい二十三年度の若い人を迎える準備で、春まで忙しいと思います。しかし、目標をその先に置いて、それぞれの部署で活躍されることを期待しています。今後とも皆さまのご協力をお願ひします。



アジア卓球連合が後藤淳理事長に記念の楯を贈る

後藤淳理事長が十一月下旬、アジア卓球連合（ATTU）から記念の楯を贈られました。理事長は一九七一（昭和四十六）年、名古屋市中で開催され「ピンポン外交」を生んだ第31回世界卓球選手権大会後に発足したATTU会長を一九七六年（二〇〇一年まで、それ以降は終身名誉会長を務めています。その長年の功績を称え、ATTUからの記念の楯贈呈となりました。

また、愛名会事務局長の松原暁美愛知県卓球協会副会長兼理事長も十二月、日本体育協会から長年、公認スポーツ指導者としてスポーツの普及振興に貢献したとして表彰されました。県卓協会長は後藤淳理事長が務めています。



後藤泰之学長

明けまして、おめでとうございます。大変厳しい寒さの中での仕事始めとなりました。昨年は自由ヶ丘キャンパス、新1号館（開設）等で、あつという間に一年が過ぎた感じです。考え

てみますと、ここ最近は、学科再編および学部再編、さらに大学開学五十周年等があり、また、学生にやる気と元気ということ、いろいろな教育改善に取り組む一方、入試改革等の推進と、ほんとうにこの数年の（本学の）変化は、実に目まぐるしいものがありました。ただ、こういう変化を繰り返し、大学も開学以来、ここまで発展してくれたと考えると、ただ変わ

らないのは、「物づくり」を柱とした実学教育を実践してきたことで、これだけは「ブレない」で、きています。これが本学に対する大きな評価に、つながっていると考え、今後もこうした伝統を充実、ますます発展させていく所存です。大手予備校の模試結果等を見ると、本学の前期日程入試の志願者は増える気配です。間もなくセンター試験、そして、本学の前期入試、後期入試日程と三月ま

で入試や新入生受け入れの準備に追われますが、皆さまの協力で新年度を元気な姿で迎えたいと思います。それも見せかけの元気ではなく、真の元気を持った大学として今年、しっかりと様々な課題に向かって取り組んでいきたい。幸い今年は大きな行事もないので、腰を据えてじっくり本学の方向性、様々な課題を考えたいと思っております。皆さまのお知恵やご協力、よろしくお願ひします。

【写真は、記念の楯を手にする後藤淳理事長】

愛工大名電高卓球部谷口寮・Meiden スポーツセンター完成



愛工大名電高卓球部の「谷口寮」と体育施設「Meiden スポーツセンター」が、名古屋市千種区谷口町に完成、部員も入居を終え、スポーツセンターで連日、練習に励んでいます。学園が元同高テニスコート場跡に建設し12月6日、同所でオープニングセレモニーを行いました。

新寮は鉄筋3階建て、延べ床面積683平方メートル。2、3階が健康面等から畳のベッドやロッカーを備えた部員の部屋（各2～3人用で計13室）、コーチ室、1階が寮監室、食堂、洗面所・風呂場等という間取りです。また、スポーツ



センターは鉄骨平屋建て516平方メートルで、コートは卓球台を楽に10台置ける広さのうえ、壁面はグリーン系で統一され、ゆったりと練習に打ち込めるように工夫されています。

オープニングセレモニーでは、後藤淳理事長の挨拶の後、学園や高校の幹部、教職員らが見守る中、後藤淳理事長、後藤泰之学長、佐藤忍校長らが寮の玄関前で紅白のテープにはさみを入



れ、卓球部の新施設完成を祝いました。理事長は、スポーツセンターでラケットを手にラリーを披露、大きな拍手を受けていました。

午後から、授業を終えた部員も参加して理事長、学長も交えた“初練習”で、新しいスタートを切りました。

【写真は、左上が新しい寮とスポーツセンター、左下が畳のベッド等のある部員の部屋。右上が明るく、広々としたスポーツセンター、右下が、初“打ち”で完成を祝う後藤淳理事長】



学園創立100周年関連



学園は、募金事業の実施に伴い「募金事務局」を設置しました。事務局の電話は、「0565・48・8711（代）内線3117」です。募金事業は、左記の通りです。また、百周年のロゴ（上）も決まりました。

「学園創立100周年記念募金」について

平成24年に学園創立100周年を迎えるにあたり、下記の通り、記念の募金事業を実施しています。教職員の皆様からの募金につきましては、後日、あらためて詳細をお知らせしますので、ご協力のほどお願いいたします。

募金要項

募金目標額10億円

次の100周年記念事業の費用の一部に充当させていただきます。

- ・名古屋電気学園100周年記念館（仮称）建設
- ※若水キャンパスの南側敷地に、平成24年完成予定で
- ・大学八草キャンパスの整備・充実
- ・設置校の、情報機器等、教育・研究設備の整備・充実
- ・奨学金制度の充実

寄付金の種類

- (1) 法人を対象とするもの
一口の金額は特に定めておりません。
- (2) 個人を対象とするもの
一般篤志家、同窓生、教職員等 1口1万円
在学生の父母 1口5千円

募金期間

平成25年8月31日まで

グリーンエネルギー研究拠点開設 — 本学・総合技術研究所に —



本学の総合技術研究所は十二月三日、プロジェクト「ナノ材料制御技術による新規太陽光エネルギー利用統合技術の創出」の文部科学省平成二十二年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業採択を受け、「グリーンエネルギー研究拠点」を開設。それに合わせ「第一回グリーンエネルギー研究拠点開設シンポジウム」を開催しました。(写真は、看板を手にする後藤淳理事長 Ⅱ 右から二人目 Ⅱ Ⅰら)

プロジェクトは、科学技術発展に伴う「地球環境の保全—低炭素社会の実現—」という新たな課題に対し、本学の培ってきた安心・安全社会を創る省エネルギーのための基盤技術の研究開発をさらに推進、太陽光発電、蓄電、電力変換装置、およびそれらの高効率統合システムに関する必要な技術を研究・開発し、低炭素社会実現のためのグリーンイノベーションに貢献する一を目的にしています。本年度から五年間かけ、「安心・安全社会の実現」に不可欠な▽窒化物系電子・光デバイスの高度化低コスト化の研究▽有機太陽電池、無機/有機複合系太陽電池



研究拠点開設に合わせ開催されたシンポジウム

の開発と実用化▽高機能蓄電池の開発と実用化▽スマートグリッドへの適用を指した太陽電池用電力変換回路と太陽電池をエネルギー源とする電動機システムの開発の研究開発・実用化に取り組みます。プロジェクトリーダーは、澤木宣

彦電気学科教授、サブリーダーは落合鎮康同教授。シンポジウムは八草キャンパスで開かれ、後藤泰之学長の挨拶の後、架谷昌信総研所長、澤木教授がプロジェクトの意義、取り組み等を説明。引き続き、韓国海洋大学の李三寧教授、本学応用化学科の大澤善美教授ら四人が、「グリーンエネルギー実用化に欠かせないナノ材料制御の窒化物系半導体、有機機能材料を用いた有機デバイス、リチウムイオン電池等の研究、開発について講演しました。



シンポジウムに先立ち、総研三階の「グリーンエネルギー研究拠点」で、看板上掲式が後藤淳理事長、後藤泰之学長、架谷総研所長、澤木教授、落合教授のほか教職員、学生が出席して行われました。式後、理事長、学長らが研究拠点を

見て回りました Ⅱ 写真 Ⅰ。研究拠点には順次、ラマン分光光度計等の機器を導入し研究・開発を進めていきます。

高校生が自然科学、ものづくりの研究成果競う

第9回A I Tサイエンス大賞研究発表会

高校生を対象とした「第9回A I Tサイエンス大賞研究発表会」が十一月十四日、八草キャンパスで開かれました。愛知、岐阜、三重、静岡県から「自然科学部門」に十八校(計十九チーム)、「ものづくり部門」に十一校(計十二チーム)が応募、研究成果を競いました。

後藤泰之学長の挨拶に続いて10号館一、二階の大講義室で両部門のステージ発表が行われ、参加各校がそれぞれ取り組んできた研究、調査等の成果を披露。同発表の後、隣接のA I Tプラザで各校に分かれ、研究作品やパネル等を展示し研究成果を競い合うパネル展示発表のほか、参加校交流があり、各校のブースとも研究成果等を説明する生徒らの熱気に包まれていました。

審査の結果、優秀賞には「自然科学部門」で▽時習館(愛知)▽向陽(同)▽富岳館(静岡)、「ものづくり部門」で▽愛工大名電(愛知)▽安城農林(同)▽時習館(同)がそれぞれ選ばれました。



優れた研究成果が相次ぎ審査委員の大学教員も感心させたステージ発表

- 優秀賞以外の各賞受賞校は、次の通りです。
- 〔自然科学部門〕
 - 〔奨励賞〕岐阜(岐阜)▽加茂(同)▽多治見北(同)▽四日市西(三重)▽一宮(愛知)・岐山(岐阜)・大垣東(同) Ⅱ 共同研究グループ
 - 〔努力賞〕岡崎北(愛知)▽一宮(同) Ⅱ ニテーム発表▽安城農林(同)▽岡崎(同)▽津島東(同)▽斐太(岐阜)▽土岐商(同)▽加茂(同)▽帝京大可児(同)▽静岡農(静岡)
 - 〔ものづくり部門〕
 - 〔奨励賞〕豊田工(愛知)▽一宮(同)▽岡崎(同)▽岐阜工(岐阜)▽上野工(三重) Ⅱ 努力賞〕豊橋工(愛知)▽小牧工(同)▽豊田工(同)▽大同大同(同)

大学から

社会人のための
の組込みシス
テム入門講座

社会人や地域への大学ノウハウの提供、情報発信、奉仕活動、反対に教育、産業等の各分野の最先端で活躍する人々を招いて生徒、学生のやる気を起こさせる授業等、大学を含む各設置校と社会、地域との繋がりが年々盛んになっていきます。学園、各設置校の動きを紹介します。

文部科学省の平成二十年
度戦略的大学連携支援事業
として採択された本学のほ
か名工大、大同大、豊田高
専四校提案の「工科系コン
ソーシアムによるものづく
り教育の拠点形成」推進事
業の一つ、「社会人のための
の組込みシステム入門講座
ーメカトロニクス入門」講
座が十一月〜十二月まで、
本学と名工大で開かれまし
た。

に名工大で開講式と第一回
講座が開かれ、鶴飼裕之名
工大副学長の挨拶に続き、
本学の渡辺修工学部教授が
講座概要を説明しました。
この後、講師の森田良文名
工大工学部教授が会社員ら
受講生二十四人に、二輪型
倒立ロボットが倒れない理
論や倒立制御などを含めた
「概論およびロボット教材
での制御システム実習」を
テーマに、講義と実習を行
いました。

同入門では、二輪型倒立
ロボットの製作と制御を題
材に、組込みシステムの開
発で求められるハードウェア、ソフトウェアの知識を
社会人に教育。十一月六日



名工大で開催の第1回講座

広がる社会とのつながりー学園各設置校で、地域で

地域防災研究センターの
指導、協力による「家具転
倒防止」対策を施したモデ
ルハウスが十一月〜十二月
まで名古屋市長東区の見学
で展示され、市民らの見学

学生が団地で
家具転倒防止
対策等を指導

二回目講座の「二輪型倒
立ロボットの製作」からは
本学・八草キャンパスで毎
週土曜日に開かれ、十二月
十一日に閉講しました。



市民に家具転倒防止策を説明する学生

も多く話題を集めました。
同区の上社北住宅の住民
らでつくる上社北住宅管理
組合が予想される東海・東
南海地震発生で住宅区周辺
も震度5強〜6（名古屋市
防災マップ）に見舞われ、
被害も懸念されるため、一
昨年末、センターに防災診
断を依頼。その結果、建物
は大きな被害を免れそうな
ものの、家具、電気製品等
の転倒防止対策が不十分な
ため、室内での被害発生の
恐れがある、と分かりまし
た。
管理組合は、住民から普

高校から

ノーベル賞候
補の遠藤教授
が生徒に講演

段使っていない住宅を借り、
正木和明センター長（都市
環境学科教授）の指導で転
倒防止策を施したダンス、
電気冷蔵庫のほか防災グッ
ズ等を展示したモデルハウ
スに仕上げ、公開。期間中
は、正木研究室の学生が詰
め、訪れた市民に各転倒防
止グッズ、家具の転倒防止
にもなる耐震収納箱、非常
持ち出し用品等の説明、過
去の大地震の被害、防災対
策等をまとめたビデオを上
映し、防災対策の重要性を
訴えました。

愛工大客員教授の遠藤守
信・信州大教授が十月二十
八日、愛工大名電高の喬徳
館で普通科一年生、科学技
術科、情報科学科各一〜二
年生に「ナノテクノロジ
とは」と題して特別講演し
ました。
遠藤教授は、日本の産業
弱体化の一つに大学の責任
もあると述べ、科学、技術
分野でしつかりした国を造



生徒に熱く語る遠藤教授

生徒らは、人類の歴史を
振り返りながら日本の今の
状況、科学技術の必要性を
熱く語る遠藤教授の話を、
真剣な表情で聞き入ってい
ました。

遠藤教授は長野県須坂市
出身。カーボンナノチュー
ブの発見と大量生産技術を
開発、毎年、ノーベル賞候
補にあがっています。文部
科学大臣賞、中日文化賞な
ど数多くの賞を受賞。



光る学園の真価



◇手嶋紀雄愛
工大応用化学科
准教授 FIA
学術賞受賞◇



手嶋准教授は、内外の優秀な研究者に贈られる「2010年度フロンティアエクシジョン分析(FIA)学術賞」を受賞、今年七月、ポランドで開催のフロンティアエクシジョン分析国際会議で表彰されます。

受賞対象となった研究業績は、「環境・生体負荷物質評価のための高機能フロンティアエクシジョン分析」で、新しい流れ分析法・デバイスの開発等の研究により環境水、排水、医薬品、生体試料の量を抑え、なおかつ試料中に含まれる環境・生体負荷物質の評価、迅速化につなげました。手嶋准教授は、一九九二年からフロンティアエクシジョン分

析研究・デバイスの開発に取り組んでいます。「フロンティアエクシジョン分析褒賞委員会」が昨春秋に国内外から推薦された研究者の中から顕著な研究業績をあげた手嶋准教授ら三人(うち二人はオーストラリア、ポルトガル)を選考。手嶋准教授は「価値ある賞をいただき、名誉に思います。これを機にさらに研究に励み、医療分野との連携で、がん等の重大疾病の早期発見につながる計測技術の開発にも努めたい」と話していました。



◇プロ野球の巨人、日本ハム入団◇



愛工大 大名電 高校野球部の谷口雄也(普手)が十月二年

十八日のドラフト会議でプロ野球・日本ハムから五位指名を受けました。

谷口選手は高校野球部の合宿所(春日井市)で指名の連絡を受け、報道陣のライト等を浴びながら佐藤忍校長、倉野光生監督と記者会見に臨み、心境やイチロー二世の呼び声が高いこと等を聞かれ「夢がかない、うれしいの一言です。部員やみんなに“ありがとう”と言いたい。イチロー二世と言われ光栄です。(野球部先輩の)イチロー選手に一步でも二歩でも近づけるよう、努力していきたい」と、満面の笑みで答えていました。

この後、グラウンド脇にある昨年、交通事故で亡くなった同級生で部員の徳波康介君の碑の前で、「一緒に頑張ろう」と報告しました。

【写真は、指名の後、佐藤校長(左端)、倉野監督(右から二人目)から祝福される谷口選手】

愛工大硬式野球部の荻野貴幸内野手(マーケティン情報学科四年)は巨人か

ら育成ドラフトで指名を受け十一月二十三日、東京ドームで行われた新人選手入団発表に他の新人選手と臨み、晴れて巨人軍の一員となりました。

指名を受けた後、本学八草キャンパス内で巨人軍スカウトと会い入団等の説明を受けました。スカウトからは「荻野君の“足”を買っています」「一軍入りを一日でも早く果たして欲しい」と激励の言葉をかけら



「頑張ってる」と後藤泰之学長から激励され、握手する荻野選手

れ、荻野選手は「歴史あるチームの一員になれば、光栄です。プロでは足なら“オギノ”と言われる選手を目指し頑張ります」と、力強く語っていました。硬式野球部部長の中川覃夫経営学科教授、監督の奥田好弘キヤリアセンタ―主査や荻野君の両親も同席しました。

学内の会議の合間を縫って駆け付けつけた後藤泰之学長が、「プロでも頑張ってください」と言葉をかけ、握手を交わしました。



◇東海学生アーチェリー選手権大会女子の部で愛工大洋弓部の小林優梨選手優勝◇



小林さんは十二月十二日、トヨタスポーツセンターで行われた2011年度東海学生アーチェリー選手権大会で初優勝しました。二月の「全日本学生室内」(インドアインカレ)出場が濃厚となりました。男子も団体2位と健闘しました。小林さんは、十八日離れた今回のインドア選手権大会で、600満点中556点と自己最高得点を挙げ、

2011年度東海学生アーチェリー選手権大会で初優勝しました。二月の「全日本学生室内」(インドアインカレ)出場が濃厚となりました。男子も団体2位と健闘しました。小林さんは、十八日離れた今回のインドア選手権大会で、600満点中556点と自己最高得点を挙げ、

初優勝しました。同部顧問の柳井裕道・基礎教育センター教授によると、東海大会で本学の女子が優勝したのは初めて、と言うことです。小林さんは経営学科一年で静岡県出身。地元で開催された国体のアーチェリー競技にひかれ、中学一年の時から始めました。



また、同男子団体に出身した内田陽君（建築学科二年）、田崎亘悠君（都市環境学科一年）、熊崎健人君（機械学科二年）のチームII写真左から田崎君、内田君、熊崎君IIが、合計で1667点をマークするものの、首位と4点差で惜しくも準優勝に終わりました。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆



◇高校、大学各フェンシング部
選手が国際大会出場◇
愛工大フェンシング部の
二宮司君（経営学科一年）

スイス・バーゼル市で行われた「2011年フェンシングJrスイス国際大会」に日本代表選手として出場しました。



一月二十日、十四日

二宮君は一月七日〜十日に駒沢オリンピック公園体育館で行われた「第18回JOCジュニア・オリンピック・カップ・フェンシング大会兼2011年世界ジュニア・カデ・フェンシング選手権大会最終選考会」のジュニア男子エペ（十七歳〜二十歳対象）に出場。予選全勝でトーナメント戦に臨み、準々決勝で惜しくも敗れ6位となりましたが、同成績と別に選考会、JOC杯戦での得点ポイントで決まる世界ジュニア選手権選考ランキング男子エペの順位を5位に上げ、日本代表選手の枠（五人）に入り初の国際大会出場と日本代表選手を手に入れました。

二宮君は島根県出身で、先にフェンシングをしていた兄に誘われ高校一年から

始め、本学フェンシング部に入ってから集中力、駆け引き等で勝敗を左右するエペに引かれ、本格的にやるようになった、ということです。



愛電大名高フェンシング

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

グ部の高阪一世君（普通科三年）は、二宮君と同じ選考会のジュニア男子フルレに出場し、4位に入りました。ジュニア男子フルレランキングは参加大会が少なかつたため得点ポイントが10位でしたが、試合を観戦した日本代表のコーチや日本フェンシング協会からの推薦で一月二十二日、オーストリア・メドリンク市で行われた国際大会出場を果たしました。

高阪君は愛工大附属中学進学後に入ったフェンシング部で頭角を現し過去、国際大会に今回を含めフルレ二回、エペ三回の計五回出場。卒業後は、中央大学に進学し、フェンシングを続けると話しています。

中日ドラゴンズの堂上兄弟を激励



兄の堂上剛裕外野手

中日ドラゴンズ・リーグ優勝に貢献した愛工大名電高野球部OBの堂上剛裕外野手、堂上直倫内野手兄弟の後援会パーティーが12月5日、名古屋市のホテルで開かれ、高校、後援会、ファンら関係者約300人が詰めかけ、盛り上がりました。パーティーでは、佐藤忍校長、野牧一雄元校長、倉野光生野球部監督や野球部後輩で、日本ハムに入団した



弟の堂上直倫内野手

谷口雄也外野手（普通科3年）ら、兄弟と係わりの深い人が壇上に上がり、激励。堂上兄弟も「レギュラーを獲り、さらに頑張ります」と力強く“宣言”。野球部の応援を続けている吹奏楽部も駆け付け、2人にちなむ曲の演奏、激励の色紙をプレゼント。堂上兄弟から部員全員にプレゼントのサプライズがあり、部員を感激させました。



また、堂上兄弟は11月26日、名古屋市内のホテルで開かれた「平成22年度名電高同窓会役員会」に出席。同窓会名誉会長の後藤淳理事長から「さらなる活躍を期待しています」と励まされ、加藤訓会長から同窓会からの激励金を贈られ、「来シーズンは、今年以上に頑張ります」と、それぞれ力強く抱負を語りました。

【写真左は、後藤淳理事長と記念写真を撮る堂上兄弟】



日ごろの練習成果を披露、観客を魅了した演奏会

愛工大名電高吹奏楽部の「第46回定期演奏会」が一月九日、名古屋市熱田区の名古屋国際会議場・白鳥センチュリーホールで昼、夜の部の二回、行われ、ホールを埋めた観客を魅了しました。昼の部の演奏に先立ち、後藤淳理事長が演奏会の経緯等に触れながら「様々な応援が、部員に対する一番の励みです。今後とも吹奏楽部に対する応援をよろしくお願いします」と挨拶。

満員の観客を華麗な演奏で魅了
第46回名古屋電高吹奏楽部定期演奏会



演奏に先立ち挨拶する後藤淳理事長

部員は伊藤宏樹教諭らの指揮のもと、2010年度全日本吹奏楽コンクール課題曲Ⅳの「夕風のマーチ」から軽快に入り、「ジュラシック・パーク・サウンドトラック・ハイライト」、サン||サーンス作曲の「交響曲第3番ハ短調 作品78『オルガン付き』より」等を次々に披露。全国大会出場常連校の実力を、いかなく発揮していました。また、演奏の合間に、おなじみのステージドリル2011「レジェンドワン」が披露され、着飾った部員による歌や踊りもあり、楽しませました。昼の部では開演前から長い行列ができ、演奏会の人気の高さをうかがわせ、演奏を終える度に、会場内から大きな拍手が沸き起こっていました。

ベストセラーの作家講演

愛名会だより

名古屋電気学園の後援会組織・愛名会と中部産業連盟が11月19日、名古屋市内のホテルで、ベストセラー「もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら」の作家、岩崎夏海氏(42) =写真⑤=を講師に招き「平成22年度講演会」を開催。会場は、400人を超す会員らで埋まり、盛況でした。



岩崎氏は東京芸大建築科卒で、作詞家の秋元康氏に師事し放送作家として数多くのテレビ番組制作に参加、ゲームソフトのプロデュース等を経て作家となり、1昨年12月、高校野球部の女子マネージャーがドラッカー(アメリカの経営学者)のマネジメントを野球部の再生に活用、夢の甲子園出場を果たす一という「もしドラ」を発表。200万部を超える大ベストセラーとなっています。



岩崎氏の講演に聞き入る大勢の愛名会、中産連会員ら

神尾隆愛名会会長、名誉会長の後藤淳理事長らが、日ごろの学園、愛名会への協力、支援への感謝等の挨拶をした後、岩崎氏が「なぜあなたの組織は成果を上げられないのか〜ドラッカーのマネジメント思考〜」と題して講演。今、日本で企業をはじめ各分野で起きている過去にない変革が、ドラッカーの創出したマネジメントで「見えなかったものも見えてくるのでは」と考えたのがドラッカーに関わるきっかけになった自身の話から切り出し、第2次大戦直前の世界大恐慌、米国の自動車大量生産方式等の中から誕生したドラッカーのマネジメントの理論や思想等を分かりやすく解説。最後に、マネジメントの拡大につながる知識社会の到来で、世界の先端を行く日本が今後は世界のモデルになる、と締めくくりました。

編集後記

▼暑い夏は冬も寒さが厳しい、と言われています▼その言葉通り、昨年末から本格的な寒さが続き、特に一月十六日のセンター試験二日目の雪は、東海地方でも三年前の積雪を上回る量となる等、日本各地に大雪をもたらしました▼最近の気候は、狭い地域に短い時間の間に大雪や大雨を降らせ、大きな災害の爪痕を残すという「暴れ」ぶりです▼この原因はいろいろと言われていますが、地球温暖化等の環境汚染と合わせて、世界的な問題となっています▼昨年は、愛工大で環境七大学公開講座、リレー学際トーク、そして総合技術研究所にグリーンエネルギー研究拠点開設と、環境保護等に向けた様々な動きがありました▼こうした積み重ねが、問題解決へつながっていくと思います▼来年に迫った学園創立百周年の主な記念事業も決まりました▼募金活動等も動き出し、記念事業も環境保護活動と同じで、切れ目のない活動が大きな成果を生むと思います。(久)